

## 平成27年度 徳島県立阿南工業高等学校 学校評価 総括表

### 1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し、基本的人権を尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動できる人間力を育成する教育を推進する。
- ③ 社会の一員としての役割を果たし、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立していくために必要な能力や態度を育てるキャリア教育を推進する。

### 2 本年度の学校経営目標

- ① 職業人として必要とされる資質や態度を身につけた人材を育成し、個々の進路実現が図れる学校づくりを推進する。 [学校力の向上]
- ② 豊かな人間性と高い人権意識を身につけ、他者を思いやる心と自尊感情を育む。 [人間力の向上]
- ③ 専門分野に関する確かな技術及び技能の定着を図り、ものづくりなどの体験的学習を通して実践力を育成する。 [実践力の育成]
- ④ 地域の活性化や地域産業を担う人材の育成と地域との連携を深め、地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。 [地域との交流]

### 3 重点目標と計画

		自己評価				学校関係者評価	次年度への課題 今後の改善方向
中期目標	重点目標	目標達成のための計画	評価指標・活動計画	具体的な取組・評価の根拠	評価	学校関係者の意見	
学校力の向上	① 基礎学力の定着を図り、学力の向上を図る。	出張等による授業振り替えや学校行事等の精選・実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。	年間の授業実施時数を1単位につき35時間の80%以上確保することを目標にする。	授業実施率86.5%(87.8%)	A	きめ細かく取り組まれていることがわかり、良く分析をされていると思う。	学校行事の精選等により授業時間数の確保に努めていきたい。
		各教科の「学習指導の記録」の作成・中間評価・最終評価を実施して、わかりやすい授業へ改善を進める。	生徒の授業評価アンケート総合評価4.0以上を目標。 A:4.1, B:4.0以上	授業評価アンケート結果の平均は4.02。将来の生活や仕事と関連させて授業内容を理解させることが課題である。	B	報告を見ていて、先生方の努力がうかがえる。反省の中で、取組を進めていると思う。	授業内容が、将来の生活や仕事でどのように活かされるのか、わかりやすく伝える取組や指導方法の検討が必要である。
		実力テストを実施する。基礎学力向上週間を年間5回実施する。ものづくりHR活動を各学年で1回以上実施し、手先の器用さや忍耐力の向上を図る。	1, 2年生:国数英, 3年生:国数英一般常識, SPI作文を全学年とも年間3回実施する。 アンケートを実施する。 A:70%, B:60%以上	アンケート(役立つと回答)実力テスト65% 基礎学力向上週間65% ものづくりHR72%	B	基礎学力向上週間中の相互授業参観は、色々な先生から意見を聞くことができる取組で大切であると思う。	実力テスト内容の精選を行う。基礎学力向上週間の実施の定着化を目指す。
		教科・科目の特性に応じて、基礎基本的な知識と技能の習得させ、思考力・判断力・表現する力を育み、言語活動の充実を図る。	楽しい授業・わかる授業を目指して授業の工夫・改善を進める。教員の相互授業参観・生徒による授業評価などを通して教員間の生徒理解を深め、理解やスキルの共有化に取り組む。	基礎学力向上週間にあわせて教員の相互授業参観を行った。国語科では、3年生は国語の授業や進路指導を通して作文を書く機会が多く設けることができた。作文や応募作品の提出率は100%(95%)であった。	B	なれないことは抵抗感があるが、繰り返し意見をもらう機会を増やして、継続してほしい。	1, 2年生の作文を書く機会を増やす。自ら体験し、感じ、考えたことを作文にまとめるなど、的確な言葉で表現する学習活動を通して、生活言語を増やしていく。作文やコンクール応募作品の課題を出し、提出率100%を目指す。
	生徒の発達段階を考慮して、言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立す	挨拶、授業態度、提出物など学習習慣に関連する課題に取り組み生徒のアンケート結果で判断する。	生徒の授業評価から「興味を持って取り組んでいる」が5段階評価で3.8程度である。授業態度の指導など課題もある。	B	相互授業参観は非常に良いことなので、続けてほしい。	必要に応じて家庭との連携をとり、出席状況の改善を図り、家庭学習の習慣を身につけられるように指導する。	

	るよう指導する。					
② 進路実現を支援するキャリア教育。	キャリア教育で身につけさせたい4つの能力・態度を育む。①「かかわる力」(人間関係形成・社会形成能力)②「みつめる力」(自己理解・自己管理能力)③「すすむ力」(課題対応能力)④「えがく力」(キャリアプランニング能力)	面談・キャリアガイダンスなどを通して、一人一人の状況に応じたサポート・支援を行う。実習や授業を通して、社会人としての資質を育てる。また、具体的な資格取得に向けた補習・支援を行う。	就職 81%(84名)、県内 65名 県外 19名。 進学 19%(20名) 2年生は3年生と同様の進路指導を模擬的に実施し、進路決定に向けての意識高揚を図った。徳島県中小企業家同友会の協力を得て、社長塾を実施した。	A	国語で取り組んでいる作文指導などは続けてほしい。 スポーツ少年団を担当していて、ドイツなどへの交流生の選考試験をしていると、高校生の作文に差があることに気づく。ちょっとしたアドバイスで良くなると思うので、機会を増やして、その都度、適切な指導をお願いしたい。	今年度同様の取り組みを進める。就職一次合格率95%を目指す。進学合格率90%を目指す。社長塾を継続して実施する。
進路情報収集・提供と進路選択の支援及び就職率の向上	3年担任、科長、進路指導課員が、最新の進路に関する情報を収集し、生徒に適切な情報の提供に努める。	生徒の希望する企業等を訪問し、適切な資料や情報を収集する。	県外のべ40社、県内数十社に向き求人計画、入社試験概要などの聞き取り調査を行い、生徒に有意義な資料を提供できた。	B		県内企業の訪問先についての検討を年度当初に入念に行い、適切な企業訪問を実施する。
	生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。採用実績を考慮に入れた進路選択による内定率の向上を図る。	進路説明会や進路講演会実施による進路選択のサポート・支援を行う。三者面談・応募前職場見学・進路先資料の公開を通しての進路選択の支援。生徒アンケートによる評価を行う。	受験生 74人中 65人が応募前企業見学が可能であり、その内 8割強の 54人が応募前見学に参加した。 一次募集の内定率が 84%(62/74)。昨年 96%(90/94)。 A: 80%以上満足、B: 66%以上	A	進路指導では、生徒たちが大学に進学して、教員になって母校に帰ってきてほしいと思う。私立大学も積極的に生徒募集しているので、生徒にチャンスを作ってほしい。地元企業を大切に今後も連携を取ってほしい。	本当の意味での応募前企業見学(面談で決定する前の見学)が実施できる環境作りの検討を行う。進路説明会への保護者の参加率を向上させる方法の検討を行う。
③ 校内教職員研修の充実を図る。	各課と連携し校内研修の充実を図り、授業力向上のための校内研修を実施する。教員のスキルアップを図り、公開授業を実施する。	昨年度以上の研修を実施する。	昨年度並みに校内研修の実施であった。学力向上週間に合わせて、授業改善のための相互授業参観の定着など活性化が感じられた。	B		ものづくり力の向上をめざし、テクノスクールや地域企業と連携した校内研修の充実に取り組む。
④ 図書館の利用を進める。	図書館便りを定期的に発行し、新入生にはオリエンテーションを実施する。展示に工夫を行う。	一人あたり来館回数 15回 ≤ A, 12 ≤ B, 12 > C 一人あたり貸出冊数 5冊 ≤ A, 3冊 ≤ B, 3冊 > C	来館者 5509人 → 5173人(1月末) H27 11.9回/人(4165人) 1人平均 11.2冊/人 → 11.8冊/人 H27 15.9冊/人 県内高校平均冊数約 5冊/人	A		生徒全員が図書館を有効に利用できるように努力する。図書委員の活動や諸処展示の工夫を行う。
⑤ 情報セキュリティ対策の推進。	情報セキュリティポリシーに関する知識の啓蒙を行う。	職員会議・職朝を積極的に活用し注意喚起し、セキュリティに対する意識の向上を図る。	職員研修を年3回実施できた。昨年度は4回実施した。必要な課題について適宜注意喚起を行った。	B		啓蒙回数の増加を図りたい。
⑥ 事業の実施による活性化を図る。	スーパーオンリーワン事業や産学官連携事業等による人材の育成を図る。	事業の実施により、創造力と実践力が身についたか、アンケート結果により60%程度の満足度を得る。	地域産の竹の有効活用の模索を通じた地域貢献活動及び地域の活性化に繋がる取組ができた。係わった生徒のほぼ全員が満足を得る結果だった。事業実施報告会も開催し、連携先からも高	A		産学官連携・インターンシップ・社長塾・知財権事業などを展開し、実践的な力の養成を図る。

				い評価を得た。		の状況に出てきていると思う。	
	⑦ 部活動の活性化を図る。	全員加入を目標とする活気ある部活動を実施する。 競技力の向上を目指す。	昨年度実績 (%) 以上の入部率が向上するよう指導する。 前年度を上回る成績や、活動実績を上げる。	85 % (92 %) の入部率であった。要因として 2 年生の入部率が昨年を下回った。 従来の運動部が成果を上げている。写真部の活動が活発になり多くのコンクールに出展している。三味線の活動が再開された。バドミントン部もインターハイ出場を果たした。	B A	本を読むこと、作文を書くこと、の経験や機会を持てるように図書室の活動を続けてほしい。 図書室の利用が活発なこととても良いことだと思う。 図書館の利用が高いのが注目点だと思う。 読んでわかることも多い。また、社会に出てから提案することも会社である。今の社会では、文章力が求められているので、作文の力をつけてほしい。	入学後 1 年が経過して部活動よりも多方面への興味が向けられている。近年本校でも部活動離れの傾向がある。高校生として学校生活以外の部分に傾注することがあるが、部活動で学べる物の大切さを考えていく指導が必要である。  新チームでの前項大会出場が減少した。先に記した 2 年生の入部率の低下が大きく関わっていると思われる。現 1 年生が継続できるような指導が必要である。  今年度の生徒会会長選挙は立候補者がおらず、中央委員会推薦となった。来年度は生徒会の中心となる人材の育成を図っていきたい。  近年文化祭と地域合同防災訓練を切り離していただいた。教職員の負担も軽減された。また、昨年復活させた前日祭(芸術鑑賞)も好評であったので来年も継続させていきたい。
		生徒会活動の充実。生徒が自主的に活動できる生徒会の育成  充実した学校行事の実施。体育祭、文化祭の充実を図る。	中央委員会の活動を活発になるよう年 3 回は計画する。  文化祭での来校者数が昨年 (300 人) を上回るように、体育祭で近隣の保育所、幼稚園などと交流を行う。	球技大会の運営を生徒だけで行う形式を取り 3 年が経過した。徐々に意識の浸透が見られる。今後は文化祭も生徒の役割を増やしたい。 文化祭は昨年をやや下回る来校者数であった。当日の周辺校の学校行事などマイナス要因も認めない。また、体育祭は幼稚園、保育所の協力もあり交流が続けられている。その際に保護者の来校も多い。	B  B		
		人権教育の活動を進める部活動の「あこう研究会」の活動を充実させる。	週 2 回の校内活動や南部ブロック生徒部会、中・高生による人権交流集会等の参加率を 80 % 以上にする。	南部ブロック生徒部会、中・高生による人権交流集会の活動に 100 % 参加することができた。	A		生徒の自主性・主体性を高揚させたい。
人間の向上	① 基本的な生活習慣の確立を図る。	規則正しい生活に心掛けるよう指導し遅刻をなくす。(遅刻時の声かけ、月遅刻 6 回以上生徒の特別指導 (生徒課長・学年主任・コース長))	1 日の学校全体の遅刻数を 7 回以内に作る。(平均)	クラスの 1 ヶ月遅刻 5 回以内表彰を行い、目標を持たせた。遅刻生徒には、生活指導などを個別に行った。1 学期は 1 日平均 4 人程度であったが 2 学期以降 10 人程度に増えた。	C		家庭との連携を深める。 2 学期に気を引き締めるための強化月間をもうけるなどの工夫をしたい。
		遅刻防止に取り組み、時間を守る事の大切さを再確認し、基本的な生活習慣を身につけさせる。毎月の遅刻回数が 5 回以内となるよう、家庭との連携を図りながら学年全体として指導する。	1 学年の年間遅刻回数を 240 回以内となるよう、各クラスで取り組む。遅刻の多い生徒に対しては、学年としても個別指導を行う。	1 年生の遅刻回数は、1 月 13 日時点で 326 回 (449 回) であった。クラスにより取組遅刻回数にばらつきが大きい。月 5 回以内表彰を受けられないクラスと継続して取れているクラスがある。	C		遅刻回数は、クラスにより大きくバラツキがあるが、あらゆる機会を通じて、指導する必要がある。
		積極的に明るく元気な挨拶が	すべての生徒が挨拶出来	パワフル週間や学校安全の日、		部活動で生徒	今後も継続していきたい。自分か

	出来るようにする。(パワフル週間, 学校安全の日)	る。	又登校時の服装指導等を通して指導にあたった。概ね元気に挨拶が出来た。	B	たちは良く努力していると思う。指導の先生方も良く指導している。その成果を見ると, 色々な大会での成果やものづくりの取組, バトミントン, 写真など, 頑張ってるなという盛り上がりを感じて, 嬉しく感じる。これからも, 頑張ってもらいたい。	積極的に挨拶できるよう指導を行う。
	頭髪・服装を正しくし爽やかに生活する。(全校集会における頭髪服装指導と継続的な指導)	頭髪服装検査を毎月の全校朝会で実施し, 1週間以内に改善を要する生徒を30人以内にする。	改善を要する生徒の1ヶ月平均人数が51名(昨年55名)であった。ほとんどはカラーと校章のない生徒である。頭髪については, 4月5月に多くの生徒を指導したがその後は減少した。	C		校章・カラーを付ける指導を全教員で徹底したい。頭髪についても, 根気強く指導を続けたい。
②人権意識の高揚をはかる。	"あわ"人権学習ハンドブックを活用して「人権を確かめる日」, 「人権教育統一ホームルーム活動」の充実を図る。学校の教育活動全体をとおして, 人権尊重の精神を訴える。	人権感覚を高めるため「あわ」人権学習ハンドブックを7回程度活用する。生徒の人権学習アンケートの「有意義であった」をA:70%以上,B:65%程度。	人権を確かめる日, 人権学習ホームルーム活動で参考資料として6回(昨年5回)活用した。人権学習のアンケート結果で「有意義であった」と回答した生徒は76.6%(昨年78.2%)。	A	頑張ってもらいたい。	積極的に活用をはかりたい。人権意識の高揚と問題解決に対する態度や行動をさらに充実させるための指導を計画的に実施する。3年次のアンケート78.6%で2年次では87.5%でダウンしている。
	公正な採用選考のあり方について理解させる。校内面接練習で, 「就職差別につながる」とされる14項目について適切に指導する。	校内管理職面接で, 「就職差別につながる」とされる14項目に抵触する質問を受けたとき, 80%以上の生徒が指導したとおり返えられるように指導する。	人権学習ホームルーム活動や各科での就職面接指導の成果もあり, おおむね達成できた。	B	挨拶が良くできると感じている。最近特に良くできていると思う。以前から阿南工業高校の良さの一つである挨拶の取組の成果が出ていると感じる。文化祭に寄せてもらった時に, 強く感じた。	各科と連携して指導を充実させたい。
	校内人権教育教職員研修の充実をはかる。学校行事として講演会等の内容を充実させる。	ホームルーム活動打合せ・教職員研修会を全員参加で年8回以上開催する。人権問題に関する生徒講演会(映画会)を実施する。	人権学習ホームルーム活動打合せと校内教職員研修会で, 8回以上実施した。参加率は87.2%(昨年92.3%)であった。人権啓発DVD「アイムヒア僕はここにいる」を鑑賞し, 発達障がいについて理解を深めた。	A		教職員研修会の参加率を向上させるための工夫・改善等が必要である。映画会と講演会の2本立てで計画する。
③環境教育を推進する。	校内美化を徹底する。	毎日の清掃出席簿を作成する。ワックスがけを年間2回以上。年2回の全校除草(技師との連携)を行う。教室等のゴミ資源を6分類する。学期に一度ゴミ袋内の分類程度を確認する。月一度ゴミ資源の集積状況調査をする。年1回雑誌を古紙業者収集依頼する。電気使用量・水道使用量を前年比で減少させる。	概ね生徒は清掃に参加出来ていたが, 一部の生徒が参加できていなかった。教室のワックスがけは, 実施できていない。各教室ゴミの分別は徹底できた。実施できた。	B	6次産業化に向けた工業の取組を進めてほしい。先生も大変だと感じている。子どもの興味に即した取組をしなければいけないし, 社会のニーズに応じた取組も求められている。頑張ってもらいたい。	全員参加出来るように指導を徹底する。
	循環型社会形成を推進する。資源ゴミの分別を徹底する。					ゴミ分別の徹底を継続する。雑誌等のリサイクル活用を図る。
	省エネルギーへの取り組みをする。		前年度とほぼ変わらなかった。			省エネの取り組みを進める。講演会を実施し, 地球規模で考え, 足下から実行できる人間育成に努める。
	環境問題講演会を実施する。環境問題標語・ポスターを募	3年間で環境問題の重点課題が理解されるよう講演内	講演会は実施できなかった。全校生徒対象に募集を実施し,	B	建設現場見学	

	集する。	容を検討する。	提出率は 85 (75) %だった。		会など工事現場を一年生の時から見て行くことはとても良いことだと思う。社会へ出る前から現場を見ることは、生徒の関心意欲を高め良いことだ。	継続した取組を進める。
④ 安全教育を推進する。	防災教育の推進。火災時の初期消火と避難、人員確認と地震時の避難と人員確認。	いつでも、どこでも安全に避難し、人員が確認できるような体制を整備する。避難訓練をより実践に即した方法に改善する。	緊急避難訓練は実施できた。地域合同の防災訓練を実施した。訓練はよく取り組めた。	A		これまでの指導の徹底をはかり、自転車通学時の安全の意識を高める指導を行う。自転車の整備の徹底と二人乗りや、携帯使用をさせないように指導する。
	交通事故0をめざす。	原付等の交通事故をなくすため、実技指導、講演会、自転車点検を行う。	登校時に各危険箇所の交通指導や、原付の実技指導、免許所有者集会を定期的に行った。月に一度自転車点検を実施した。軽度の事故であったが自転車事故が年度当初に数件あった。昨年のように入院を伴う事故はなかった。原付事故の報告はない。	B	安全管理も現場に行けば、その必要性や現実の取組がよくわかる。	
⑤ 健康教育を推進する	教育相談の充実と食育の推進。	教育相談室を毎日開室する。“教育相談だより”を発行する。食育講演会とアンケートを実施する。	ほぼ毎日、教育相談室を開室した。教育相談だよりを2回発行した。食育講演会を1回(1回)実施。アンケート結果を文化祭で展示した。	B	資格取得が弱いと思うので、より一層の努力がほしい。工業の科の枠を超えて資格試験にチャレンジすることも、今後必要である。取り組む姿勢が、チャレンジする力を伸ばすと思うので、どんどんチャレンジさせてほしい。	教育相談に関する情報の啓発を積極的におこなう。食育カルタ等をホームルーム活動で実施し、地産地消の啓発等もおこなっていく。  保健だよりやその他の掲示資料等で保健に関する啓発を迅速におこなっていく。
	生徒自らが健康管理ができるように、継続的な保健指導を行う。	保健だより等で保健に関する啓発を行う。繰り返し保健室を利用する生徒の数の減少を図る。	保健だよりを10回(8回)発行した。アンケートで実態把握をおこない、文化祭で展示した。	A		
⑥ 特別支援教育を推進する	特別支援教育の研修を充実させ、関係機関との連携を図り、効果的な支援をめざす。	校内職員研修会を実施する。ケース会議を行い職員全体の共通理解を図る。必要に応じて外部の関係機関と連携を取り、適切な支援を行う。	昨年同様、校内教職員研修会を3回、推進委員会を2回実施した。教職員が生徒の実態把握ができるようにアンケート調査をおこない、個別対応を図った。	B		調査結果をふまえて、校内の特別支援体制を整える。教職員の知識サポートとなるような「支援だより」を発信する。
⑦ 学校いじめ防止の取組を進める。	学校いじめ防止基本方針を作成し、PTAの理解と協力を得て、取組を進める。	教育相談体制、未然防止のための取組、早期発見・早期対応に取組、年1回以上、いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題に関する校内研修を行う。	未然防止のため、7月と2月に学校生活やいじめのアンケートを実施。計画的に校内巡視を行い、生活状況の把握に努めた。保護者との連携や個人面談を行い、いじめの早期発見に努めた。	C	機械科の生徒も電気関係の資格を受けさせる。受けることで興味関心が広がる。機械関係でも仕事になると電気関係も必要になる。	校内研修により組織での対応の強化を図りたい。
⑧ 道徳教育の充実を図る。	工業技術者に求められる道徳教育を、教育活動全体を通して取り組む。「言葉を通しての道徳教育」を行う。	全体計画・年間計画を作成し道徳教育の充実を図る。キャッチフレーズ等を募集する。	横断幕やのぼりを作成し、掲げることで愛校心の定着を進めた。アンケート等を実施し、計画的に取り組んだ。	B	機械/電気と分けて考えるのではなく、広くチャレンジさせてほ	年間計画の作成を通して、道徳教育の充実を図る。  生徒会役員が多くが運動部に所属

	⑨ボランティア活動を推進する。	ボランティア活動を通し地域や世代を超えた交流を行う。	生徒会だけでなく部活動を巻き込んだボランティア活動を3回実施する。	地域合同防災訓練で、生徒会役員が駐車場誘導係を担当した。また、インターアクト部が文化祭で募金活動を行った。	B	しい。 体験入学の取組は、参加生徒が興味関心を持ってたという点で、とても良い結果に繋がっていると思う。	しており、時間的余裕がないのが現状。今後は運動部とともにボランティアの機会を作ってもらおうよう働きかける。
実践力の育成	①ものづくりの技術・技能の向上を図る。	教員の旋盤技術及び溶接技術向上のための校内研修会を実施する。校外の研修会や実技講習会へ積極的に参加する。	学校外の研修に積極的に参加する。	ものづくりマイスター、テクノスクール教官による職員研修会を2回行った。溶接技術の研修会に2名が参加した。	A	興味ある生徒が来てくれるところが一番大切なところである。学力の高い低いには、関心意欲があれば改善できる。入学してから、学力は伸ばせば良い。	積極的参加を促す。
	②ものづくり技術を生かす。	実習等の成果を基に、ものづくりコンテストに参加して上位の成績を残す。	旋盤作業、電気工事競技部門、測量競技部門、ロボット競技など高校生ものづくりコンテストに出場する。	四国溶接競技大会参加、旋盤作業県大会優勝（四国大会3位）、電気工事競技県大会奨励賞、測量競技県大会2位四国大会出場	B	地域連携の取組としては、阿南市の竹の発電（藤崎電気）チップ化など地域の取組も多い。また、竹を使う場合は、竹藪からの切り出しが大変である。	外部指導者に依頼して競技力の向上を図る。練習して精度を上げる。
	③安全作業教育を推進する。	実習を通して、自己や怪我にあわないよう生徒の安全に対する意識の高揚を図る。	実習前に服装の確認や作業手順・ルールを徹底する。安全の確保ができるように職員が実習場の点検、体制を整える。生徒による評価を実施する。	建設では、実習出席率92.6%。服装等で不十分だった。電気科では、生徒評価80%。実習中の事故による怪我等はなかった。機械科では、服装チェックでほぼ全員が正しくできた。	B	建設科では、2級土木施工管理技術検定試験講習会受験2名、3級技能検定（とび）合格0名（4）。	建設では、さらに実習の出席率を上げる。電気科では、引き続き安全作業教育を徹底する。機械科では、若干名の生徒が実習に相応しくない高価な靴を履いていたので改善させる。安全靴着用の徹底を図る。
	④阿工版デュアルシステムの充実を図る。	2学年全員参加の短期インターンシップと3学年希望者が参加する長期インターンシップの充実を図る。事前指導、事後指導を充実させる。	成果発表会を実施し、受け入れ先企業や参加生徒のアンケート評価を行う。生徒の進路希望に応じた行き先を確保する。	短期インターンシップでは、ほぼ全員が希望する体験先を確保できた。長期では、機械科6名が阿南テクノと大久保鍛冶屋、建設科4名が阿南生コン工業。	A	地域との連携とともに、若い感覚を取り入れた取組を進めてほしい。ブレークスルーの提案が必要だと思う。今までやってきた人は既成概念で、善し悪しを決めてしまうなどという、高校生のひらめき、アイデアに期待	生徒の就労意欲を上げるために事前指導を行い、専門性を重視した体験先にするよう指導する。南部テクノスクールと連携し自動車工学などの知識や技術習得を図る。
	⑤望ましい職業観・勤労観の育成を図る。	進路セミナーの実施により進路に対する意識の効用を図る。社会人講師の活用や企業見学・現場見学を通して職場の状況や働くことの大切さを理解させる。	企業の人事担当者、卒業生を招く。卒業生・社会人講師を招いて進路セミナーや見学会を実施する。生徒アンケートによる評価を行う。	建設科職員全員が指導にあたり、1年生の建設現場見学会を6回実施することができた。知的財産権教育で2回の実技指導を実施した。	B	機械科では、2級技能士へチャレンジさせるようにする。ボイラー取り扱い講習参加にとどまらず、ボイラー技士試験受験を喚起する。電気科では、希望制補習は参加率が上がるようにアピールする。建設科では、資格に対する意欲は高く、次年度も地道に指導を続ける。	次年度も建設現場見学会を実施したい。
	⑥資格取得を推進する。	合格率をあげるために可能な限り、資格取得補習を実施する。様々な資格取得にチャレンジするよう指導し、自主教材づくりを行う。昨年度以上の合格者数、合格率を目指す。	計算技術検定、情報技術検定3級では、一斉指導、個別指導、補習を実施し合格をめざす。2級土木施工管理技術検定学科試験用教材及び2級建設施工管理技術検定学科試験用教材を作成する。	機械科では、旋盤3級技能士に全員合格。ボイラー技士試験は受験生徒1名。電気科では、2種合格率38%（63）筆記は70%強、危険物乙4は15%（20）。建設科では、2級土木施工管理技術検定試験講習会受験2名、3級技能検定（とび）合格0名（4）。	機械B 電気C 建設C		

地 域 の 交 流	① 地 域 の 貢 献 を 推 進 す る。	地域や小中高等のニーズ把握を踏まえたものづくりを通して地域貢献、学校間連携を図る取組を実施する。また、環境・防災関連製品を製作し地域へ応える。	連携先から聞き取りアンケート調査により70%以上の満足度を得る。(地域の方々の防災訓練の実施)	地域の小中高との連携は今年度できなかった。 地域産の竹を使つての防災関連品作りと地域への配布ができた。	B	したい。  HPでの広報についてよく見させていただいている。見たい情報がまだ少ない。  徳島新聞を上手に活用して、情報発信につなげてほしい。みんなは良く新聞を見ているし、学校に関する記事に関心は高い。  担当者がHPを書くだけではなく、知らない人が取材して作成するなど、保護者や外部の人がほしい情報を発信できるように工夫してほしい。興味関心を持ってもらえるように、攻めの情報提供を考えてほしい。	ものづくりで地域貢献活動を推進する。 お年寄りの方への自宅での家具転倒防止金具の取り付けを行う。 地域合同防災訓練の継続実施。
	② 積 極 的 な 活 動 と 開 放 を 推 進 す る。	ホームページの内容を充実させ、定期的に更新し最新の教育活動を広報する。	毎月20回程度ホームページを更新できるよう各課等に働きかける	昨年度とほぼ同程度の月平均10回程度更新した。 A:20回, B:10程度の月更新	B	引き続き更新回数を維持する。	訪問回数としては本年度並みに重ねていきたい。さらに本校のPR活動として内容を充実させたい。
		本校の教育内容や教育活動について、中学校に対し説明し広報に努める。	訪問校を前年度より増やす。	中学校への訪問回数のべ26回(28回)。7%減少した。	B	体験入学時にいい印象を持ち帰ってもらいたい。本校の施設をフル活用して、本校ならではの体験してもらいたい。	
		中学生とその保護者を対象とする体験入学の内容を充実させる。	満足度70%以上を目指す A:80% B:70%以上大変良かった/良かった。	参加者90名(116名)で昨年より増加。大変良かった59人(67人)。良かった29人(47人)。88/90で98.7%。	A		文化祭とも連動するなかで、本校の教育施設などを見学して頂き、ものづくりに関心を持ってもらう第一歩になるようにしたい。
		”徳島教育の日”に合わせ、中学生とその保護者、近隣住民に対し、公開授業、施設開放などを行う。	参加者を前年度より増やす。特別活動課の文化祭受付名簿による。	参加者160名 H26 204名。H25 149名。 約10%減少。	C		保護者が気軽に来校できる、来校したくなるような魅力的なPTA活動を展開し、PTA総会、各種研修会等の保護者参加人数を増加させ、PTA活動を活性化させる。
		PTA活動をタイムリーに広報する。また、PTA総会、各種研修会などへの参加人数を昨年度以上に増やす。	文書案内だけでなく、学校ホームページで活動の案内を積極的に行う。また、PTA活動を活性化させる。	昨年以上に各役員会・研修会・阿工祭など多くの方の参加を得ることが出来た。気軽に来校出来る学校には今一歩と思う。	A		
③ 産 官 学 連 携 を 推 進 す る。	地域社会や企業と連携したものづくりや、ものづくり技術・技能の継承を行う。地域企業の講師を招聘し実技指導を行う。短期・長期インターンシップを実施する。	教員評価や連携先からの評価と、実施後の生徒アンケートを行う。6割以上生徒の希望通りの行き先を確保する。	地域産の竹材を有効活用した作品の制作などの取組を阿南市のNPO法人と連携して進めた。中央テクノスクールとの連携や南部テクノスクールとの連携を進めることができた。	A		産学官連携による地域産業の担い手育成を推進する。地域のものづくり力を活用し技術の向上を図る。南部テクノスクールと連携して自動車工学や原動機の知識や技術の習得を図る。専門性を重視した体験先を希望するよう指導する	